

～海外情報～

2012年2月20日 全2頁

中国：預金準備率の再引き下げ

経済調査部
齋藤尚登

景気下支えのための預金準備率引き下げが続く

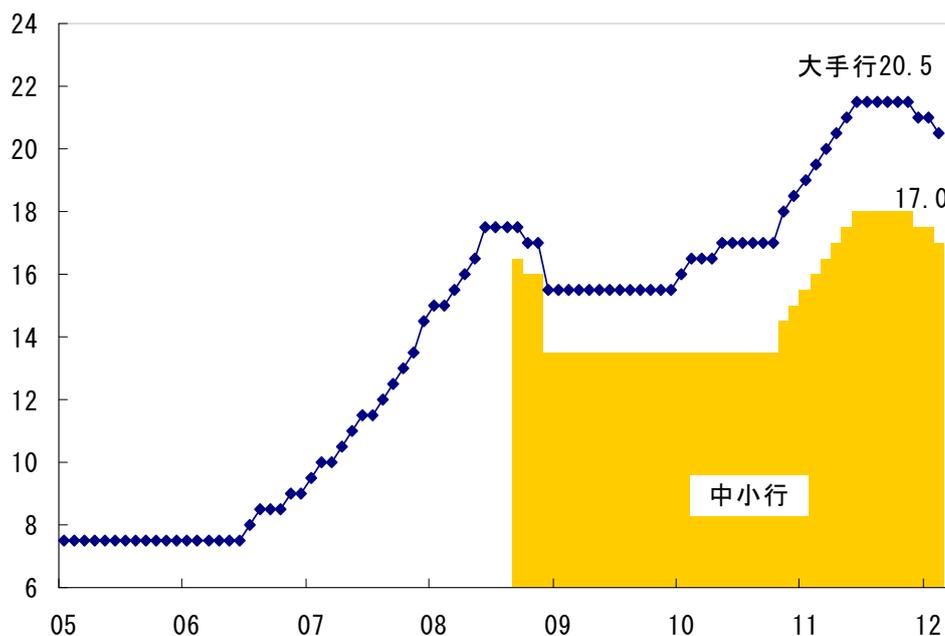
[要約]

- 中国人民銀行は2月24日より預金準備率を0.5%引き下げると発表した。今局面での準備率引き下げは昨年12月5日以来2度目で、大手行は20.5%、中小行は17.0%が適用される。経済政策の最重点は、インフレ抑制から経済への安定成長へと明確に変更されており、これから5年に一度の党大会が開催される10月～11月までの間に、1.5%（0.5%を3回）程度の引き下げが実施されると想定している。次のタイミングは1月～3月のGDP統計が発表される4月13日前後か。

大手行の預金準備率は20.5%に

2012年2月18日夜、中国人民銀行は2月24日より預金準備率を0.5%引き下げると発表した。今局面での準備率引き下げは昨年12月5日以来2度目で、大手行は20.5%、中小行は17.0%が適用される。

預金準備率の推移（単位：%）



- （注1）中国人民銀行公表分のみ掲載、対象・期間限定のものは除外
（注2）大手行20.5%、中小行17.0%の適用は2012年2月24日から
（出所）中国人民銀行より大和総研作成

1月の社会融資規模は前年同月より8,001億元少ない9,559億元にとどまる

2012年1月の消費者物価上昇率が4.5%と昨年12月の4.1%から伸びを高めたことで、預金準備率引き下げは3月以降との見方もあった。しかし、①1月の物価の上振れは、旧正月の時期のずれによるところが大きく、2月以降は再び伸びが低下すると期待された、②1月の貸出増加額は前年同月より2,882億元少ない7,381億元、株式発行や起債などを含むより広範囲な資金調達額である社会融資規模は前年同月より8,001億元少ない9,559億元にとどまった、ことから、量的な緩和に即効性を持つ預金準備率の引き下げが決定されたのであろう。

預金準備率に引き下げ余地

昨年10月以降の中国からの外貨流出もあり、預金準備率の引き下げ余地は、大きく拡大している。中国の経済政策の最重点は、インフレ抑制から経済への安定成長へと明確に変更されており、これから5年に一度の党大会が開催される10月～11月までの間に、1.5%（0.5%を3回）程度の引き下げが実施されると想定している。次のタイミングは1月～2月の固定資産投資や工業生産など主要統計が発表される3月9日以降、もしくは、1月～3月のGDP統計が発表される4月13日前後か。ただし、前者の場合、間隔が短すぎると判断されるかもしれない。

貸出基準金利が当面据え置かれるとの見方に変わりはない。1年物預金金利は3.5%、2012年1月の消費者物価上昇率は4.5%であり、実質預金金利はマイナス1.0%と、24ヵ月連続でマイナスが続いている。中国が利下げに踏み切るには、実質金利がプラスに転じる程度まで物価が抑制されるか、テコ入れが必要なほど景気が減速すること、が条件となろう。

以上